

人間としての生き方についての道徳的価値の自覚を深められる指導の工夫

伊勢崎市立坂東小学校 佐藤 睦実

I テーマについて

「人間としての生き方についての道徳的価値の自覚を深められる指導の工夫」は、本市道徳主任会の研修テーマである。このテーマは、「伊勢崎市の学校教育方針」の『『特別の教科 道徳』における指導の重点』を受けて設定されたものである。

また、本校は、研修主題「考えを進んで伝え合い、深め合う児童の育成」を掲げ、今年度は「特別の教科道徳」を取り上げ授業改善に取り組んでいる。

本実践は、本市道徳主任会の研修テーマの実現を目指して行われた研究授業であるとともに、本校の研修主題に迫る研究授業である。

なお、本授業は、『みんなで考える』場面において、児童自身が自分や友達の考えを他と似ている・違うと考えながら分類することによって、多様な考え方・感じ方に接し、誠実に明るく生活することの大切さに気付くであろう。」を視点として取り組んでいる。

II 実践例 6年生

1 主題名 「明るく生きる」【A－(2) 正直、誠実】

2 教材名 「手品師」(東京書籍 新しい道徳⑥)

3 主題設定の理由

(1) 目標

①道徳的価値について理解する

・誠実に、明るい心で生活する大切さを理解する。

②自己を見つめる

・これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深める。

③物事を多面的・多角的に考える

・誠実に明るい心で生活することを、多面的・多角的に考える。

④自己の生き方についての考えを深める

・誠実に明るい心で生活する大切さについて、自分自身の問題として受け止め、考えを深めている。

(2) 学習内容

・A 主として自分自身に関すること

・2 正直、誠実

・[第5学年及び第6学年]

誠実に、明るい心で生活すること。

(3) 系統性

5年【A－(2) 正直、誠実】

「見えた答案」

正直に行動したときのすがすがしい気持ちを思い起こすこと

6年【A－(2) 正直、誠実】

「手品師」

誠実に行動したときの気持ちの明るさを理解すること

⇒

(4) 児童の実態

5月に行った調査では「友達との約束を守っている」という質問に対して、66%の児童が「守っている」と答えた。また、事前のアンケートで約束を守れているときの気持ちについて、「なんとも思わない・普通」、「約束を守れてよかった」という回答がそれぞれ学級の1/3ずつあった。約束を守れることは当たり前で、守らないと相手に迷惑をかけるということは理解している。しかし、約束を守ることによって、自分の心が晴れやかになると感じている児童は少なかった。今後、中学に進学し交友関係等が広がると、児童が置かれた状況によっては不誠実な言動をしてしまうことも考えられる。本教材での学習を通して、誠実な言動が周りの人だけでなく、自分の心を晴れやかに明るくすることに気付かせたい。

意見交流は、少人数のグループでは抵抗なくできるが、全体発表は苦手な児童が多い。また、自分の考えを分かりやすく表現するのが難しい児童もいる。

4 本時の学習

(1) ねらい

男の子との約束を選んだ手品師の思いを考え、さまざまな考えを知ることを通して、誠実に、明るい心で生活しようとする心情を育てる。

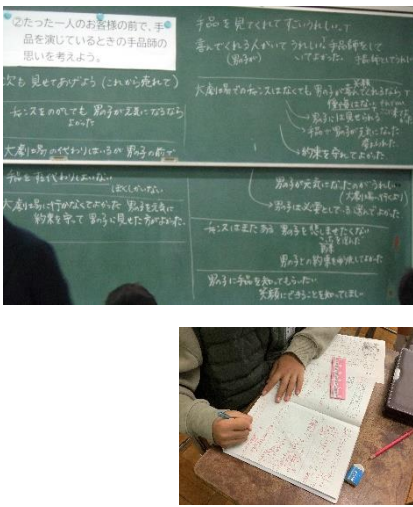
(2) 準備

教師：電子黒板（場面絵の提示・まとめと振り返りの板書用） めあてカード 発問カード
タブレット

児童：教材文プリント、ノート

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	支援及び留意点	時間	観点評価項目 (方法)
<p>1 本時の学習課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて 誠実に行動するという ことについて考えよう。</p> </div> <p>①誠実に行動するとはどういうこと でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真面目な行動をする。 ・人に優しく接する。 ・困っている人がいたら助ける。 ・どんなことでも一生懸命にやる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「誠実」とは、「真面目で真心がこもっている ようす」であると伝える。 ○児童が、「誠実」について今までの感じ方・考 え方で捉えることによって、本時の学習に見 通しがもてるようにする。 ○自分の考えは◎印の後、友達への考えは・印の 後に書かせることによって、自分と友達の考 えと区別でき、感じ方の広がりを実感できる ようにする。 ○自分の考えがまとまらなかったり具体的に 考えられなかったりする児童に対しては、友 達が発表した考えの中で自分に近い考えを 書くように伝える。 ○考えがうかばないが、自分の考えに近い発表 がなかった場合は、この後友達の考えを聞いて 自分の考えを広げていこう、と伝える。 	7 分	
<p>2 教材文を聞いて、考えたことを 話し合う。</p> <p>教師の範読を聞く。 教材の内容をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>②たった一人のお客様の前で、 手品を演じているときの手品師 の思いを考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・約束を守れてよかった。 ・男の子の笑顔が見たかったんだ。 ・大劇場のステージに立つ夢は叶わ なかったけど、男の子の笑顔が見 られてよかった。 ・男の子との約束が守れて、すがす がしい気持ち ・たった一人のお客さんの前でも、 人を楽しませられてうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手品師が、夢の実現と男の子との約束とで迷 う気持ちが理解できるよう、電子黒板に場面 絵を提示して確認する。 夢の実現： ・このチャンスを逃したら、もう2度と大劇場 のステージに立てないかも。 男の子との約束： ・男の子がぼくを待っている。 ○机間支援を行い、児童の考えを把握したり、 考えを分かりやすく表現したりできるよう 声かけをする。 ○児童のどの考えに対しても、共感的・受容的 に受け止める。 ○児童が自分の考えを似ている・違うと分類し て発表させることによって、手品師の思いに ついて多様な考え方・感じ方があることに気 付けさせる。 ○板書は、発表した児童自身や周りの児童が 「似ている考え」「違う考え」と言った通りに 分類し、視覚化する。 ○教師は進行役（ファシリテーター）となり、 児童の思考を促すようにする。 	25 分	<p>さまざまな考 えを知るなか で、誠実さは 自分の心の明 るさにつなが ることに気付 いている。 (ノート・発 言・観察)</p>

<p>考えを共有する場面（板書とノート）</p> 	<p>○教師の問いかけによって、多くの児童が一人の考えを理解できたり、児童の考えを広げたり深めたりできるようにする。</p> <p><つなぎ言葉の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうということ？ もう少しくわしく教えて。 ・つけたしは？ ・どうして？ ・どこが似ている？ ・〇〇さんの考えは分かった？ <p>○本時の道徳的価値に近づけない場合は、補助発問を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束だったから、仕方なく手品を見せたのでしょうか。 ・大劇場に行かなかったことを本当に後悔していないのでしょうか。 <p>○手品師が男の子の前で手品をしている場面絵を提示し、手品師の明るい表情を確認する。</p>	
<p>3 本時のまとめと振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>③誠実に行動するとはどういうことでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・約束は守る。 ・相手にも自分にも真面目に行動する。 ・気持ちがすっきりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>④今日の学習を振り返り、「最高学年として誠実な行動とは」どんな行動か書きましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・なかよしタイムでは周りのことを考える。 ・委員会活動はいつでも真剣にやる。 ・どんなときも真面目に行動する。 	<p>○自分の考えが変わった人は青丸、変わらない人は赤丸の印を書いた後、自分の考えを書かせる。</p> <p>○めあてに対して、自分の考えを2回書かせることによって、児童が自身の道徳的価値の認識の変化に気付けるようにする。</p> <p>○考えが変わらないことが悪いことではないことを伝え、道徳的価値の変化がなかったとしても、自分の考えにあらためて納得し、自信をもてるようにする。</p> <p>○考えが変わった人、変わらない人に数人ずつ発表させる。</p> <p>○これからの自分の行動を考えることによって、道徳的実践意欲が高まるようにする。</p> <p>○児童のノートをタブレットで撮影し、電子黒板に映し、発表させる。</p>	<p>13分</p>

Ⅲ まとめ（道徳主任会としてのまとめ）

坂東小では、1時間の流れを『坂東スタイル』として確立し、全校で統一した道徳授業を進めている。発問を中心発問に絞り、児童の考えを教師が繋ぎながら、個の考えを学級全体に理解させたり児童の考えを広げたりしている。迷いに迷って決断した手品師の思いについて、中心発問に絞って考えさせることで、児童はじっくりと考え、友達の意見と比べながら、分類して発表することができていた。

『みんなで考える』場面において、児童自身が自分や友達の考えを他と似ている・違うと考えながら分類することは、児童の多様な考え方・感じ方に接することができ、道徳的価値を深めるのに有効であったと考える。

本実践をとおして、『坂東スタイル』のように全校で共通理解・共通実践することや、それを積み重ねることの大切さを教えていただいた。

今後、児童の発言に対し「揺さぶり」をどのように取り入れると良いか、振り返りにおいていかに自分事としてとらえさせるとよいか等、引き続き主任会として研究していきたい。

授業研究会 ある班のまとめ

